

土砂災害とSDG。

延岡市立延岡中学校

三年

伊藤 いとウ

丈琉 たける

「台風が日本に接近しています。土砂災害に注意してください。」の県に線状降水帯が発生しました。この地区には土砂災害警戒情報が発表されました。最近はこのように「ユースを以前よりよく目にするようになった。実際に、今年の夏にも、自分が住んでいる地域に台風も接近し、土砂災害警戒情報も発表された。すぐ近くの市では、線状降水帯が降

し、今年はより土砂災害というものをより身近に感じた夏だった。

このように、近年は雨による災害が多く発生している。大雨による被害は甚大なもので、河川が氾濫したり、家が浸水したり、日照不足により作物が育たなかったり、土砂災害が発生したりと、自分たちに大きく影響するものばかりだ。

このように、大雨による災害が多く発生するようになった。これは、地球温暖化が

関わっているということ。学校で学習した地球温暖化は、人間が排出した二酸化炭素が原因の一つと言われている。二酸化炭素と、
いうのは、車の排気ガス、工場の煙、化石燃料を燃焼させるときなどに発生する。

これらの要素は、よく考えてみると、全て私たちの生活に関わっているもの下である。近年は、SDGsが掲げられたり、学校の授業でも地球温暖化について学ぶ機会が増えたり、レジ袋が有料になったり、プラスチックを削減させる取り組みが行われたり、地球温暖化をストップさせる取り組みが多く行われている。

私は、このような取り組みが、地球温暖化だけでなく、大雨による災害を減少させることにも関わっているの下はないかと考えた。

土砂災害の対策について調べてみると、各市町村が山肌にあすファルトの壁をつくったり、砂防ダムをつくったりしている。しかし、これらの対策は、各市町村がやるもの下あり、

自分たちは取り組むことができない。

しかし、地球温暖化により、大雨による土砂災害が増えていることを考えると、SDGの取り組みをすることで、自分たちでも土砂災害の対策をできるのではないかと考えた。SDGの17の目標のうち12では、つくる責任、つかう責任というものが掲げられていて、ここでは、無駄遣いをしないことや、必要以上のものを買わないことなど、自分たちがすぐにできる内容が書かれています。

無駄に商品を買わないこと下、企業が必要以上により商品を作ることを防ぎ、商品を作る過程で発生する二酸化炭素の量を減らすことが下きる。

また、レジ袋はエコバッグで対応するなど、すでに世の中で行われていることもたくさんある。

このようなことを考えると、自分たちがこのような取り組みをして二酸化炭素の排出量を減らすことが下きるうは、ごく微量である。

さらに、これは土砂災害を減らすことではな
く、これ以上増やさないようにするためであ
る。とても気の遠くなるような取り組みだが、
これらをする事で、未来の自分の子供たら
に土砂災害による不安を少しでも和らげるこ
とができるのではないかと考えた。

今までの自分は、SDGsの取り組みは地
球温暖化を止めるものだとは思っていただけ
だった。しかし、今日この作文を書くにあたり
て、SDGsは地球温暖化がもたらさず先
の災害を防いだり、被害を小さくしたりする
ことにも役立つっているということを考えるこ
とができた。

土砂災害は、もともとは大雨によつて起こ
る災害だが、地球温暖化により大雨が多発す
ることによつて土砂災害の発生が多くなつて
いるという事に気付いた。このように、S
DGsを単に地球温暖化をストップさせるた
めのものという考えだけにとどまらず、ど
に、どのようなふうに繋がっていかを考える

ことが大切だと感じた。そうすることでも、リストラの取り組みがより良いものになり、土砂災害に限らず、他の動物に与える影響なども和らげることができるとは思わなかった。

これから、土砂災害をこれ以上増やさないため、地球温暖化をストップさせるために自分にできる身近なことを探して、取り組んでいき、未来の地球に貢献できるように、毎日過ごしていきたい。